

2019 年度 全国科学館連携協議会 関東ブロック会議 報告書(案)

日時: 2020 年 1 月 29 日(水) 13:30~17:00 会場: 日本科学未来館(東京都港区青海 2-3-6)

幹事館: 千葉市科学館 参加: 23 組織 35 名

[概要]

関東ブロックでは、今年度より 2 年毎に幹事館を持ち回りで運営することが決まり、2019 年度と 2020 年度は千葉市科学館が幹事館となる。弊館が位置する千葉では今年度、台風や記録的な豪雨による被害が相次ぎ、毎年実施している大型の科学イベントが台風 19 号で中止となった。これらを背景として、今回のブロック会議では、災害をテーマに展示や館の運営などについて情報共有を行った。

[開催報告]

1. 開会の挨拶 千葉市科学館の館長井上厚行より、4 月より新任した旨も含めて挨拶を行った。

2. 各館自己紹介 1 組織ずつ、担当者の業務内容や組織の紹介を行った。

3. 話題提供 1

未来館の常設展示「100 億人でサバイバル」の解説ツアーを行った。担当は未来館の科学コミュニケーション専門主任である島田卓也氏で、通常の来館者向けのツアーと異なり、展示のデザインや設計の意図、来場者導線、オープン後の対応等も含めた解説となった。特に展示の配置や導線における狙いなどについては、参加メンバーがそれぞれ聞きながら聞いている場面もあり、未来館ならではの展示づくりの例として参考になったと思われる。

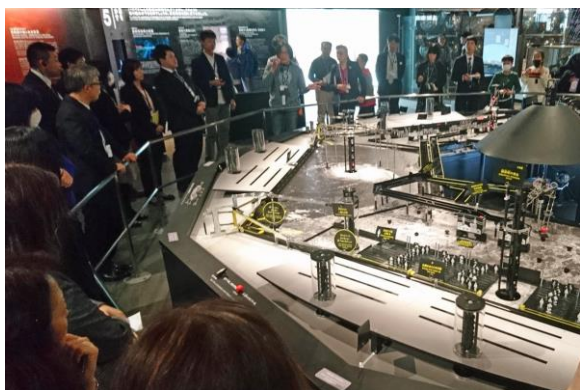


写真 1: 常設展示のツアーの様子

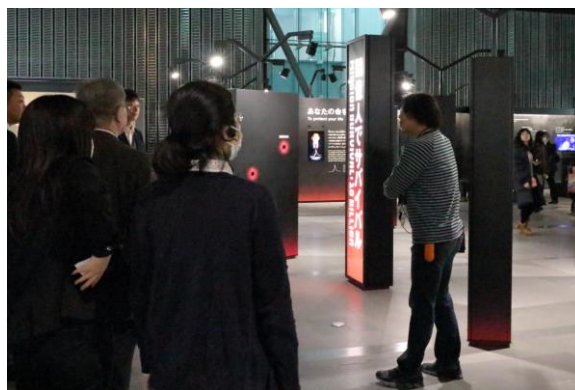


写真 2: 解説中の島田氏(右)

4. 話題提供 2

島田氏から資料を用いて「未来館での展示のつくりかた」についてレクチャーを行った。未来館のミッションや展示の企画開発について簡単に紹介したあと、未来館ならではの企画制作の体制や企画の立て方などについて説明した。未来館は「展示手法開発」も業務のひとつである。「100 億人でサバイバル」の中

央のゾーン 2(写真 1 のボールが転がる展示)の手法のもとになったものが「動物園」であり、「本物があるから飽きずに見ていたり、いろいろ発見したり…」といった要素があることから、どのようにして地球上で起きる様々な事象に関わる動きを「本物として見せる」ために、非常に複雑なシミュレーションを綿密に行ったことを紹介した。それに加えてあえて「少し嫌な予感」をゾーン 1 に設定するなど、一般的な展示の構成と異なる点を紹介した。また、これまでの未来館の展示制作の事例をいくつか紹介し、それぞれのメリットやデメリット(工期、予算面等)についても紹介した。今回参加している組織の中で、未来館と同じような規模で展示の定期的な企画制作を行っている科学館はないと思われるが、「題材ではなく課題から考える」という企画の立て方や、展示制作における留意事項などは、多くの科学館にとって参考になったと思われる。

5. ディスカッション

・展示評価について

未来館では展示完成後に展示評価という形で、観覧者にヒアリングを実施している。また、いくつかの常設展示については、ホームページで展示活動報告書という形で公開している。未来館以外の加盟館で、大規模な展示リニューアル時に実施しているところはあったが、ほとんどの館では実施していないとのことであった(アンケートは多くの館で取っているが)。

・来館者層の低学年傾向とリピーター対策などについて

常設展などを頻繁に入れ替えることはできないため、講座やイベント等でリピーターを獲得しているという館が多数であった。また、全体的に低学年の来館者層の割合が増えている中で、刃物や薬品を扱う講座等における対応について意見が交わされた。安全面や運用効率化のために、厳密に対象年齢を限っている場合もあれば、保護者同伴を条件として未就学の同伴も可能にしているケースなど、様々なノウハウが共有された。

・災害発生時(または予想されるとき)の館の運営について

関東ブロックは職員が公共交通機関で通勤している場合が多く、交通機関の計画運休を行うケースが増えてきた中で、各館の対応状況を共有した。千葉市科学館では、先の台風 19 号接近の際、東日本大震災以来初めて臨時休館し、数十団体、1 万数千人が来場する大きな科学イベントを中止したという事例も紹介した。関西圏では「○○警報発令で休館」などとわかりやすい基準を HP 等で明示している一方で、今回の参加館では明示していない館がほとんどで、今年度の被害を受けてまさに対応を決定、または検討中という館があった。

6. 幹事館の所感

今回、初めて幹事館を務めるにあたり、準備に十分な時間を割くことができず、開催時期が限られたために、参加人数や参加組織数が減ることを懸念したが、災害や展示づくりを会議のテーマとしたことで、これまで参加のなかった加盟館からの参加もあった。当日の進行において、大幅に予定がずれこんだことは幹事館として反省しているが、充実した内容の会議になったと思っている。展示制作や評価、災害発生時の対応等は今後も会議の機会に限らず、様々な形で共有できるといい。次回は、千葉市科学館での開催を予定しており、参加しやすい内容となるよう検討を進めている。

以上